

日中一時支援に関する 意見交換会資料

大津市障害者自立支援協議会

事務局 松岡啓太

日中一時支援の概要(地域生活支援事業・任意事業)

事業の目的

- 障害者等の日中における活動の場を確保し、障害者等の家族の就労支援及び障害者等を日常的に介護している家族の一時的な休息を目的とする。

実施主体

【実施主体】市町村、特別区、一部事務組合及び広域連合

(実施率) : 85.6% (1,491 市町村) ※令和2年度地域生活支援事業費等補助金実績報告より

事業内容

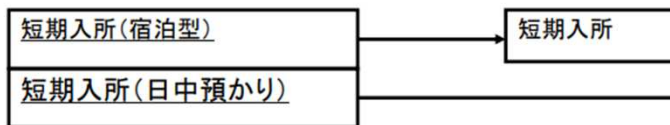
1. 日中、障害福祉サービス事業所、障害者支援施設、学校の空き教室等において、障害者等に活動の場を提供し、見守り、社会に適應するための日常的な訓練その他実施主体が認めた支援を行う。
2. 送迎サービスその他適切な支援を実施主体の判断により行う。
3. 事業は、地域のニーズに応じて行う。
なお、本事業を利用している時間は、ホームヘルプサービス等その他の障害福祉サービス等を利用できない。

出典：「地域生活支援事業等の実施について」（平成18年8月1日障発0801002号厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部長通知）

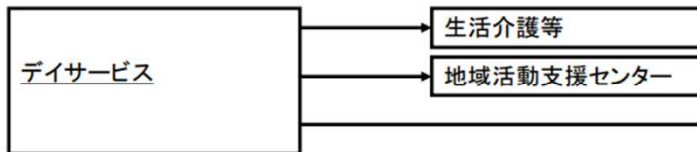
自立支援法施行と日中一時支援

日中一時支援事業と児童デイサービス

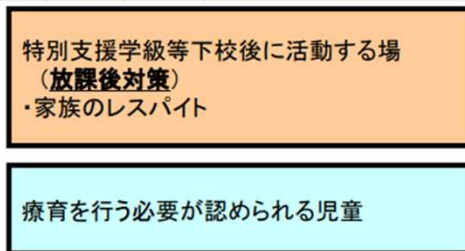
○ 知的障害者・障害児のショートステイ(日中預かり)



○ 身体障害者・知的障害者のデイサービス



○ 児童デイサービス・タイムケア事業



日中一時支援事業

・日中において監護する者がいないため、一時的に見守り等の支援が必要な障害者等の日中における活動の場を確保し、障害者等の家族の就労支援及び障害者等を日常的に介護している家族の一時的な休息を図る。

※ 知的障害者・身体障害者についても利用可。(年齢要件を緩和)

児童デイサービス事業

・児童に対し、日常生活における基本的動作の指導、集団生活への適応訓練を行う事業 15

現状・課題

- 地域生活支援事業については、市町村等において、地域の特性や利用者の状況に応じた柔軟な事業形態により事業を実施しており、障害福祉分野において地域づくり等の役割を果たしている。
- さらに、地域共生社会の実現等を図るため、理解促進研修・啓発事業や自発的活動支援事業等の実施により、障害者等に対する理解の促進を図っている。
- こうした中、事業ニーズは増大しているものの、予算額の伸びには一定の制約があるため、自治体や当事者団体から予算の確保や障害者個人に対する事業の個別給付化を要望されている。また、総務省から、地方公共団体が地域の実情に応じ必要な事業を円滑に実施できるよう、適切な事業の在り方の見直しについて、指摘を受けている。
- 一方、個別給付は個別明確なニーズに対応するものとして、指定事業者に関する基準や報酬額の基準を設けることによる全国一律な実施が求められるところであるが、様々な要因により、個別給付の対象となりうる障害者等に対するサービスを地域生活支援事業が担っている場合もある。

検討事項（論点）

- 地域生活支援事業に含まれる事業のうち、日中一時支援等の障害者等個人に対する支援が含まれる事業について、個別給付における訪問系サービス、通所系サービス等との利用対象者像の関係等の実態把握や整理を行い、その在り方について検討し、障害福祉サービスの適切な利用の推進を図ることについて、どう考えるか。
（実態把握を行う際の観点）
 - ・ 生活介護と日中一時支援との利用状況
 - ・ 個別給付が使えるにも拘わらず、地域生活支援事業により実施している事業等

① 必要な量の見込み

(1月当たり、ただし在宅重度心身障害者住宅改修費用の助成は年間)

サービス名	単位	実績			見込み		
		平成30年度	令和元年度	令和2年度推計	令和3年度	令和4年度	令和5年度
心身障害者訪問入浴サービス事業	人	36	40	40	41	42	42
	か所	5	5	5	5	5	5
心身障害者施設入浴サービス事業	人	0	0	0	9	9	9
	か所	0	0	0	1	1	1
日中一時支援事業	人	802	974	998	1,022	1,078	1,134
	か所	51	61	63	73	77	81
在宅重度心身障害者住宅改修費用の助成	人	17	13	17	17	17	17

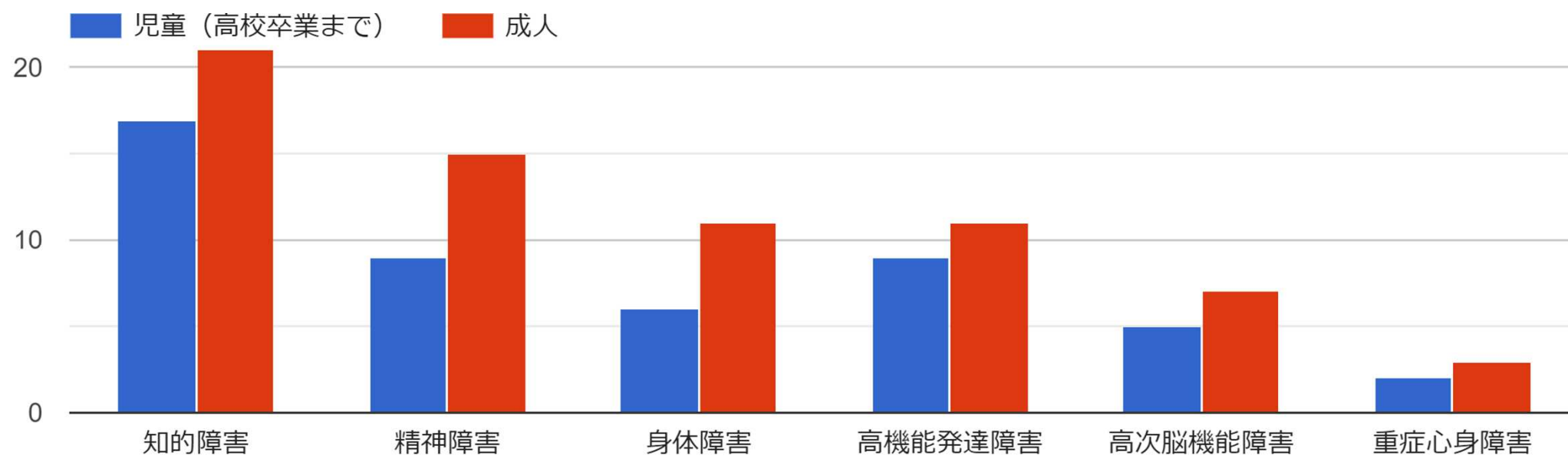
② 見込量確保の方策

- 入浴サービス事業が必要な障害のある人の把握に努め、障害福祉サービス事業所を拡充し、利用の促進を図ります。
- 受け入れ事業所の増加により、利用者は増加傾向で推移しています。今後も日中一時支援事業の必要な障害のある人の把握に努め、障害福祉サービス事業所の拡充を図ります。さらに、地域資源を活用し、可能な限り利用者の身近な地域でサービスが受けられるようサービス提供体制の充実を図ります。

大津市障害福祉計画（第6期計画）

日中一時支援事業所アンケートの報告 令和4年4月実施。27事業所から回答

主な対象者(複数回答あり)



大津市の日中一時支援事業の良いところ①

- ゆっくりとご本人のペースで過ごしたい方にとってはよい事業だと思います。
- 利用しやすく、いろいろなニーズを抱えた方が利用できる。
- 成人の軽度の方、発達障害の方が使いやすい。18歳以降の支援の種類が多い。
- 学生の間は、学校へ行けばお友達に出会えていましたが、卒業後は放課後等デイサービスの利用もできなくなるため、過ごしの場が少なくなります。日中一時支援を利用することで、友達と過ごす場が出来る。
- 他市では、不登校の方は学校の時間帯はサービス利用不可ですが、大津市では適応指導教室が使える方（支援級在籍などの理由で利用不可の方）に利用していただいています。また、他市は時間区分が4時間未満からですので、ゆったりと利用いただいています。また、成人期の発達障害の方への利用許可を柔軟に対応いただいています。

大津市の日中一時支援事業の良いところ②

- 人員確保が難しい現状では、報酬は決して高くないものの、運営しやすい。
- 事業を始めやすい、いい意味でハードルが低いところと、事業所が増えてきたことで、活動内容が様々で、多様なニーズにこたえることができると思います。
- 送迎加算が付くところ
- ニーズに合わせて臨機応変な対応が可能

日中一時支援を運営するにあたり課題 人材確保と育成

- 人材の確保の難しさにより、活動の日数や幅が広げられない。 本当は、様々な活動がしたいのですが・・・。（どうしても法人内で、人員基準のある事業所優先になる。）また、そうした事から重度の方や行動障害の方など、受け入れられる方が限られてくることもある。
- 対応する職員は正規職員ではなく嘱託職員が主に行っているもので、様々な障害特性に対応するために知識や経験が必要となってくるが、その研修等に参加する機会や時間がなかなか持てていない現状がある。
- 主にパートや学生中心になり、学生も期限があるので、育ったら卒業。これの繰り返し。
- 研修計画や誰にお願いしたらよいのか。
- 人材確保するにあたり、報酬単価が低いため、給料が低くなってしまったため人材確保ができない現状がある。

日中一時支援を運営するにあたり工夫 人材確保と育成

- 教員経験者、心理職経験者、福祉を専門的に学んだ人材を雇用することで、基礎的なサービス提供の質を維持しています。それぞれの専門職の特性を生かし、人材育成を行っています。
- 学生の中には、教員を目指す方もいて、こうした方は意識も高く、積極的に採用育成している。過去は、送迎できる方を中心に募集してきたが、送迎は出来ないと言う人でも、採用し支援員としてのみ育成する事に転換している。
- どうしても報酬単価が低いので、パートアルバイトでの人材担保となり、定着しにくさがある。一方で、障がい福祉への入口になることもあり、巣立っていかれるケースもある。

日中一時支援を運営するにあたり の課題 個別対応が必要な人の支援

- 月1回～2回程度、職員を加配しながら、時間を制限したりしながら支援をする事になっている。また他の方に、この方に合わせていく事になり、他の方に満足のいく支援が出来ないこともある。
- 報酬単価が低く、個別支援が必要な人に対応できない。また、個別支援に対応できるスタッフも育成できない。
- 細かな支援が必要な利用者対応時に、別の利用者より「特別扱い」をしているように思われたことがある。また、1日に個別対応が複数人の場合、スタッフの人員が困難。

日中一時支援を運営するにあたり の課題 送迎

- 医療ケアを必要とする利用者も対応しているが、通所利用者の送迎に看護師の添乗が必要な場合もあり、医ケアが必要な日中一時利用者の対応が難しい日があるのが現状。医ケアの方の日中一時事業の内容の拡充のため、また、送迎の実施のため、看護職員配置加算等による看護師の確保が必要と感じている。
- 送迎の必要はあるが当事業所では負担が大きい。
- 送迎支援は、昨年の最初はしていたが、やめた。送迎できる人材が少ない。

日中一時支援を運営するにあたり の課題 送迎

- 医療ケアを必要とする利用者も対応しているが、通所利用者の送迎に看護師の添乗が必要な場合もあり、医ケアが必要な日中一時利用者の対応が難しい日があるのが現状。医ケアの方の日中一時事業の内容の拡充のため、また、送迎の実施のため、看護職員配置加算等による看護師の確保が必要と感じている。
- 送迎の必要はあるが当事業所では負担が大きい。
- 送迎支援は、昨年の最初はしていたが、やめた。送迎できる人材が少ない。

大津市の日中一時支援事業の今後の理想のイメージ①

- 現在の4時間まで4000円を維持してもらいたい。
- 加算が大きくなれば、一時預かり・一時見守りの枠を超えて支援することができると思います
- 長時間や、個別対応が必要な方への加算があるとありがたい。
- 報酬単価が高くなることで、例えば給料が高くなり、人材確保もしやすくなると考えている。有資格者等の人材が確保できれば、より多くの経験を利用者様にして頂けるのではないかな。
- 様々な障害福祉サービス事業所がある中で「日中一時支援」という事業が地域のニーズに細かく対応でき、地域に開かれたサービスかな、と感じています。
- 事業所同士の繋がりを日中一時支援事業所は法人の枠を超えて作ってあげれば…と試みていたりしています。大津の日中一時支援事業所がコラボ…なんているのは面白いかなと思います。

大津市の日中一時支援事業の今後の理想のイメージ②

- 年齢層での支援やその方たちの居場所の変化に対応が必要と感じています。
- これとかが単に決まるっただけの形がなくなっているところ、自由な発想で活動を組み立てることをやる事業に純粋な活動の位置づけ点ではないかという期待をします。日中、多様な暮らしを支える事業に活動の場を設けたいと考えています。
- 就労困難者やひきこもり者の利用を増やし、交流の起点となる居場所作りを行い、生活の質の向上につながる支援事業。
- 利用者様の高齢化が進むにあたり、通所で作業が難しくなってきたら、生活介護に行くほどの状況ではない方の受け入れ先を考えます。
- 重度の方の余暇支援の充実。身体的負担を考えると住まいから近い地域性を重視した事業展開を望みます。